

三豊・観音寺地域の新たな高校づくりに向けた意見交換会（第2回）議事要旨

日時 平成22年9月9日（木） 14:00～15:40

場所 三豊工業高校会議室

1. 開会
2. 課長あいさつ
3. 第1回会議の議事要旨
4. 議事
 - (1) 三豊工業高校実習施設等の見学
 - (2) これまでの意見（三豊・観音寺地域）の説明
 - (3) 三豊・観音寺地域の統合校の教育内容（大まかなイメージ）
 - (4) その他

<主な意見>

1 学科や系列について

- 総合学科の7系列は固定されるのか。それとも時代の変化に対応して柔軟に見直していくのか。
 - ―資料には現在の観音寺中央高校の系列をそのまま記載している。系列は固定するわけではなく、平成23年度以降、おおむね5年間で見直す。
- 市PTAの会で聞いたところ、「1年生から学科が分かれるほうがわかりやすい。」という意見が多かった。
- 工業科は1年次から専門教育を始めるが、総合学科では2年次からスタートする。中学校長会では、専門教育は3年間じっくりと行うほうが良いという意見もある。
- 観音寺中央高校では、商業系列への進級を望む者には、1年次から簿記関係の授業を履修するよう指導している。それを履修せずに2年次へ進んだ者には、他の生徒に追いつけるよう特別指導を行っている。2年次からでも観音寺商業時代と同等の成果をあげているが、教員の負担は大きい。食物系列でも同様に1年次から専門科目を少し履修させている。
- 企業が最も重視するのはコミュニケーション能力だ。それに加えて専門的な能力や資格が求められる。
- 商業系列では、パソコンや簿記の力が求められる。欠席が少ない、協調性がある、明るいなどの資質が求められるのは昔と変わらない。
- 中学校長会からは、これからの時代を反映し看護や介護関係の系列を望む声がある。
- 工業だけでなく介護の分野でも今の時代に対応した教育が必要だと思う。
- 観音寺中央高校にも福祉関係の科目を設けているが、ヘルパー資格を取得するところまではいかない。卒業後の進路選択のきっかけになればと考えている。
- 電気科と電子科は教育内容も似通っていると思うが、生徒数が減少すれば、将来、両学科を統合することも検討するのか。
 - ―三豊工業高校のものづくりの伝統を継承するため、基本的に3学科を維持したいと考えている。そのためには、1クラスの人数を見直すなど様々な工夫が必要になるだろう。

2 統合校の特色について

○統合後、工業科と総合学科の間に壁が生じないように、例えば基礎科目の授業を一緒に受けることはできないか。

—授業は学科ごとに分かれて行うのが基本だが、HRを同じにして、授業時に分かれることも一つの考え方だ。授業やクラス編成を工夫して両学科の壁を取り払っていききたい。

○統合のメリットとして、両学科の融合という視点は大切だ。例えばロボットづくりは部活動として行っており学科の壁はない。統合後、総合学科の生徒が参加することもできる。

○観音寺中央高校の伝統を引き継ぐことも必要だ。資料に記述してはどうか。

—観音寺商業高校時代の商業科、食物科の良さは現在も引き継がれている。学校の努力によるところが大きい。

3 施設・設備等について

○三豊工業高校の施設をすべて観音寺中央高校の校地に移すのは難しいのではないか。

—大型機械の移動など過去にない大変な作業になると思うが、円滑に行えるよう工夫したい。

○施設・設備の選定に当たっては、生徒を受け入れる側の企業の意見もとり入れ、先端機器やどのような人材を求めているかを把握する必要がある。

4 入試の方法について

○統合校では高校入試の際に第3志望まで選択できるということだが、総合学科を第2志望にした場合は、2学科までしか選択できないのか。

—そのとおり。

5 その他

○三豊・観音寺地域への貢献度の高い学校にしてほしい。

○統合校への人的・物的支援策を講じてほしい。カリキュラム等について保護者に対する説明を十分に行ってほしい。

○部活動を活性化してほしい。

○より良い学校にするために、現場の教員の声をよく聴いてほしい。

—今後も地元企業や学校の声に耳を傾けていきたい。